

「子どもの名前を呼ぶこと」・教師の情熱と誇りを語る「初代所長講話」

6月6日(金)に所内研修として島尻教育研究所の初代所長宮城恒彦氏を講師に「一隅上げれば 三隅上がる」の講話を頂きました。

体験談を交えながらの60分の講話は、長きにわたり教職を勤め上げたプロとしての熱き思いのこもったメッセージとなりました。



写真1 初代所長講話



写真2 参加者全員で

【講話の概要】

◆ 最近思うこと

- 1 教師の道を歩んできてよかった。
- 2 郷土文化に誇りと自信をもつ。
- 3 真の国際化とは何か。
TBS 放送番組「ウルルン滞在記」から学ぶ。
- 4 日本人の民族性を考える。

「イギリス人は歩きながら考える。フランス人は考えた後に走り出す。スペイン人は走った後で考える」

笠 信太郎「ものの考え方」から

◆ 教育ア・ラ・カルト (一品料理)

- 1 教育が目指すものは一つだが、それに進む道程は教師の数だけある。
- 2 経験年数によって、積み重ねていく研究の層は異なる。
 - (1) 真似る・・・モデルになる先輩を探して学ぶ。0～5年
 - (2) 広く経験する・・・校務分掌・へき地経験など。6～10年
 - (3) 自分のものを造る・研究領域を絞る。11～15年
 - (4) 自己の確立・・・「このことは〇〇先生に聞け」16～20年
 - (5) 後輩に後ろ姿で教える 21年～



教育研究員の感想

初代所長の宮城恒彦先生に初めてお目にかかれて、とても嬉しかったです。思っていた以上に、お元気で現役を離れて20年になるとは思えないくらいの、教育に対する思いがすごかったです。とても感動し、時間が立つのが分かりませんでした。

心に残ったのは1つ目は、教育はベストではなく、継続し続けられるベターを選択するように。とおっしゃっていたので、そのように私も心がけようと思いました。2つ目は、「これだけは、誰にも負けない。」という表の言葉です。1番を保つためにも本人の努力も必要ですし、なによりも他者からの認められるという自己肯定感が持てることを、私も大切にしていきたいです。今、クラスで良さ探しをしています。紹介してくれた自己肯定の表は、良い考えと思いました。やってみたいです。

(金城睦子)